

第 49 回国立大学法人動物実験施設協議会総会の参加報告

医学系部門生命科学実験班 畠山 照彦

1. はじめに（目的等）

国立大学法人動物実験施設協議会は、大学等における動物実験の精度と水準の向上を図るとともに、適正な動物実験の実施を推進し、医学・薬学・生物学等生命科学における教育及び研究の推進に寄与することを目的としている。本総会は、年に一度開催され、会員校関係者（施設長・専任教員・事務職員・技術職員）が集まり、サテライトミーティングや懇談会を通じて情報収集・意見交換を行うとともに、総会において様々な審議を行う場である。今年度より、私は技術職員委員会の委員として活動しており、本総会の前日に開催された委員会に参加した。また、技術職員懇談会では、運営の補助を行った。

2. 期間・場所

期間：令和 5 年 6 月 8 日（木）～ 6 月 9 日（金）

場所：自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンターおよび岡崎ニューグランドホテル（岡崎市康生町）

3. 参加者等

国立大学法人動物実験施設協議会会員校の施設長・専任教員・事務職員・技術職員等

4. 研修内容

○6 月 8 日（木）17：00 - 18：00 技術職員委員会

○6 月 8 日（木）18：00 - 19：30 サテライトミーティング

・温度感受性 TRP チャンネルの生理機能

○6 月 9 日（金）9：00 - 12：00 技術職員懇談会

・技術職員の働き方ー組織化による業務の変化について

・教育講演「Modified-SHIRPA 法の紹介」

○5 月 19 日（金）13：00 - 17：00 総会。

5. まとめと感想

8 日に行われた技術職員委員会にて、翌日の技術職員懇談会の打ち合わせと、技術職員メーリングリストの活用方法について意見交換を行った。サテライトミーティングでは、生物が環境温度を感知する際の機能について、イオンチャンネル電流の紹介と温度感受性 TRP チャンネル欠損マウスの行動解析を中心とした、温度感受性 TRP チャンネルの生理機能についての講演があった。

9日の技術者懇談会では、東海国立大学機構統括技術センターの組織の紹介を中心に、所属する名古屋大学および岐阜大学による、組織化による業務内容の変化等の紹介があった。広島大学は技術職員の組織化からだいぶ経過するが、組織化を始めたばかりの大学にとっては、まだまだ試行錯誤の上の運営という印象があった。私も感じていた分野外の評価に関して、同じく皆さん戸惑っているようだった。

その後の教育講演では、マウスの全身を検査して身体的な表現型を網羅的に検出する手法、『Modified-SHIRPA 法』が紹介された。この表現型評価法は、解析支援者や動物飼育担当の実験動物に対する観察眼育成にも効果的であることがわかった。

今回、技術職員委員会の委員として初めて総会等に参加したが、今まではメールでのやり取りのみで顔を合わせるのが初めてであった。他の大学の委員の方との交流することで、情報がダイレクトで入ってくるので、やはり技術職員の横のつながりを深めていくことは重要だと改めて感じた。委員の仕事は任期が2年あるため、来年度まで継続する。引き続き委員との交流を深め、情報収集に努めることで、現在の業務にも活かせるよう努めていきたいと考える。

以上